

矢筒石

天間田代区の公会堂となっている山神社の東側に、矢筒石と呼ばれる石があります。この石は、高さが一メートルくらいあり、中が空洞になっていて、形が矢筒によく似ています。

今回は、矢筒石のお話を紹介します。



昔、天間に鈴木平左衛門という人がいました。この人はよい政治を行い、大家族となりました。鈴木家は以後も栄えたのですが、十何代かの後、自分の利益しか考えない悪徳の人が当主となりました。

あるとき、この当主は天間の横道に矢筒石という石があるのを知り、自分の物にしようと思いました。

矢筒石は特殊な養分を含んでおり、底にたまった水を飲めば胃の病気が治り、顔につければ、そばかすが治ると言われていました。その石を掘り起こすというので、村人たちは大反対をしました。

しかし、当主は遠くから大勢の大工を呼んで、石の掘り出しを始めました。すると、急に旋風が吹き、けが人が出ました。その後も工事のたびに風が吹き、恐れた工事人たちは

みんな逃げてしまいました。

あきらめきれない当主は、別の職人を連れてきて、石を途中から切断し、ついに屋敷に運び込みました。ところが、当主はこうした横暴がたたり、人々から見放され一家離散の運命に見舞われました。

それから、矢筒石は、田んぼの中に放置されたまま年月がたちました。あるとき、由比町の茶人が矢筒石に目をつけ庭石にしました。ところが、やはりこの家にも不幸が続くようになりました。ある晩、この家のおばあさんが「私は石です。元のところへ帰りたい」という物のけに目覚めました。翌朝、おばあさんは家族にこの話をし、すぐに石を元に戻したということです。

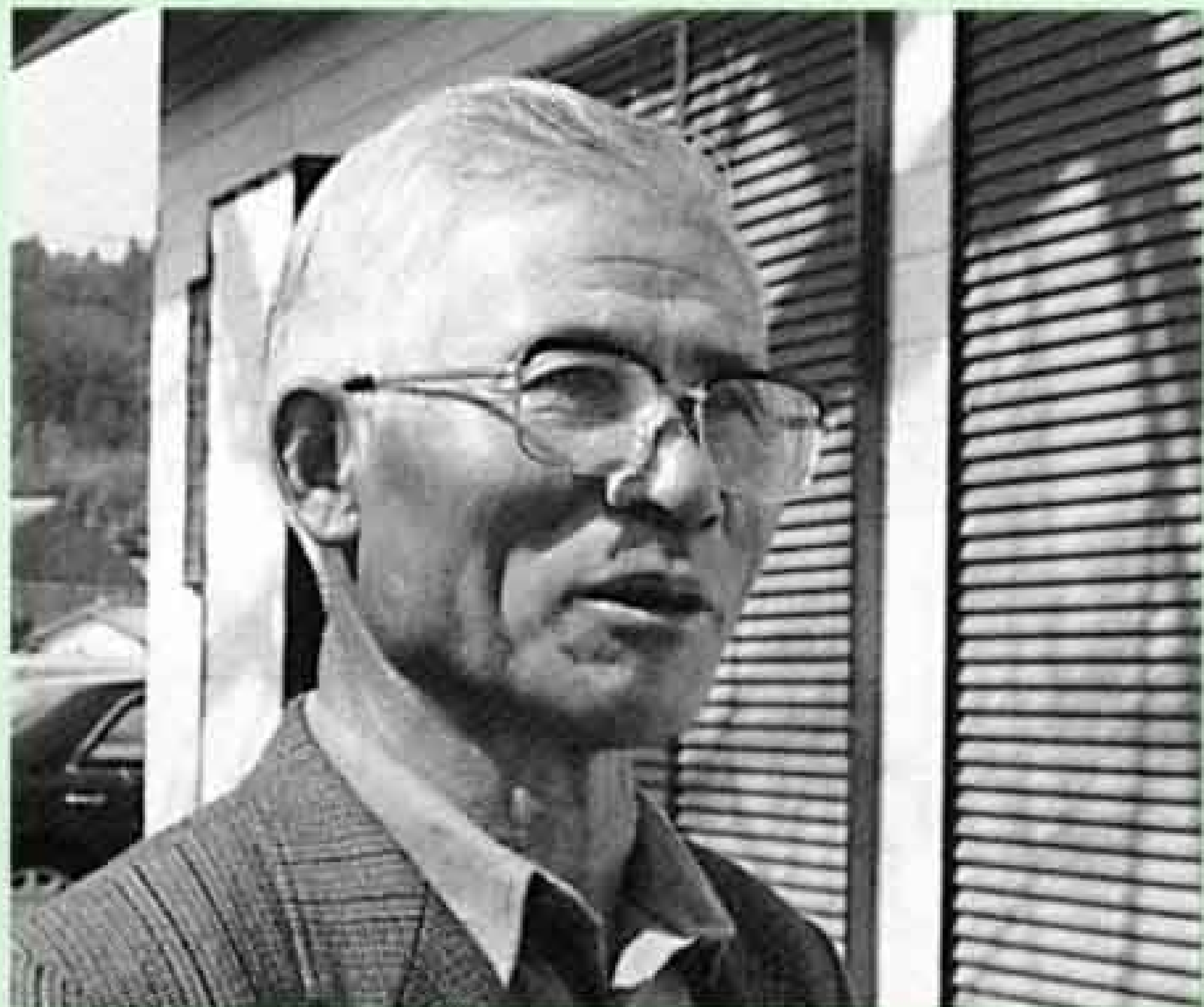
昭和の初め、当時の青年団が現在の山神社に手厚く移しました。

矢筒石については、源頼朝が富士の巻き狩りのとき、このあたりで休憩し、この石に矢筒を挿して休んだという話も伝わっています。それに、この石会山神社の裏には、五十年くらい前までは弓道場があつて、矢とは深いかわりがあるようです。

毎年十月十七日に、この神社のお祭りを行い、矢筒石にしめ縄をして祭ります。でも、地区の皆さんは、あまりこの石の言い伝えを知らないようですね。この地区の民話として、皆さんにもっと知っていただこう、広めていきたいと思っています。

天間田代区区长

関根利勝さん



こちら編集室

「E君、異動になっちゃったよ」「エッ、僕が!？」編集長の言葉に一瞬、頭の中が真っ白になった。

在籍4年での人事異動。その夜、友人たちと酒を酌み交わし、「やり残したことはないのか、悔いを残していないか」と尋ねられた。

広報紙という媒体を通して伝え

たかったことは、まだまだ山のようにある。けれど、悔いはない。なぜなら、「広報ふじ」の編集には、常に全力投球してきたから。

この4年間、多くの人との出会いがあった。それらすべてが自分の財産。大きな土産を抱え、ここから旅立つことにしよう。

人口 235,102人
男 117,064人 女 118,038人
世帯 75,221世帯 (3月1日現在)
発行・編集 富士市総務部広報広聴課
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

